

令和8年度の取組について

大 阪 都 市 計 画 局

令和8年度の取組について ①広域バイエリアでの回遊性向上等に向けた検討部会の設置

- 「バイエリアの活性化」に向けて、関係市町で構成する検討部会を設置し、新たなモビリティの活用による回遊性の向上方策や各地区を結ぶ広域的な交通のあり方の検討を進めるなど、集客交流拠点の形成につながるまちづくりを推進

検討体制

▶ 検討部会の設置

バイエリアまちづくり連携会議のもと、検討対象地区ごとに関係市町が参画する検討部会を設置し、民間事業者を交え、活性化に向けた具体的な取組を検討

《検討部会メンバー（案）》

関係市町、庁内関連部局、交通事業者（南海電鉄など）、観光地域づくり法人（K I X 泉州ツーリズムビューロー） 等

検討内容

※大阪都市計画局発注の委託調査を活用

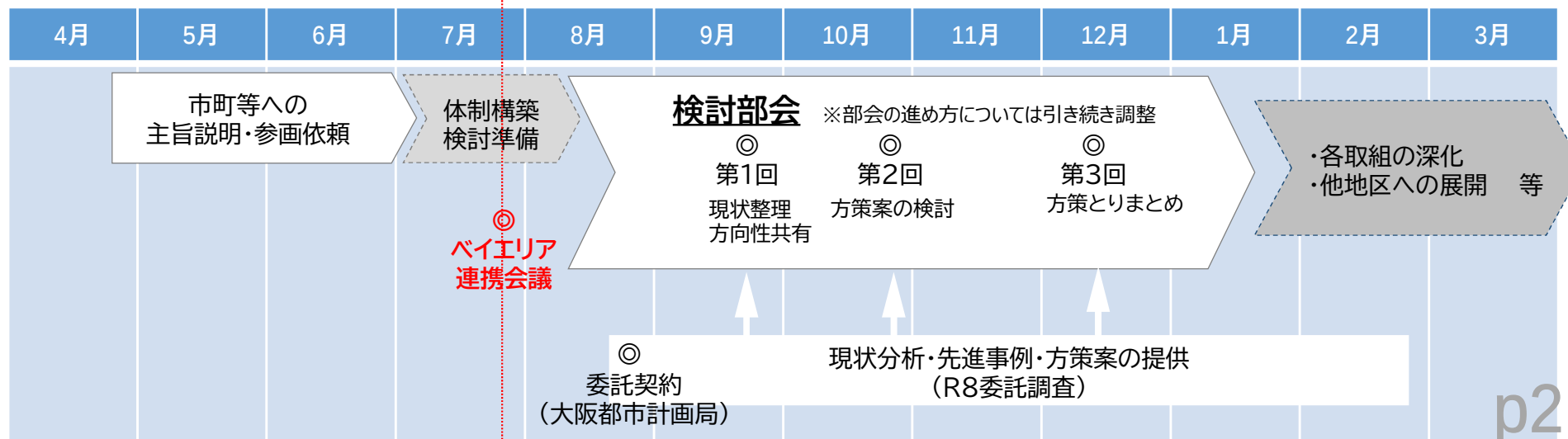
- ・ 各地区の現状・課題整理（都市機能、集客拠点、交通課題等）
- ・ 集客施設や地域資源、鉄道駅等での回遊性を高める移動手段や取組方策、社会実験等の企画検討
- ・ 波及効果の分析、エリア全体の集客プロモーション など

▶ 移動手段の一例

シェアサイクル、電動キックボード、電動トゥクトゥク、超小型EV・ミニカー、オンデマンドバス、自動運転シャトル

検討スケジュール

※R8は2地区を選定（堺泉北地区以南から選定 p4参照）し、具体的な検討を実施



令和8年度の取組について ②大阪～堺地区における関係者連携

- 大阪～堺地区の活性化に向けて、“先端技術と歴史文化、海辺環境を活かした国際観光・交流を促進”するエリアの方向性を踏まえ、関係者連携のもと、**集客・文化施設、地域資源のみならず、大阪市・堺市が実施する施策等の効果的な情報発信等**について検討・実施

検討体制

▶ 意見交換会の設置（R8.3設置）

《目的》

大阪～堺地区のバイエリアにおけるまちづくりを推進し、エリアの活性化を図るため、関係者連携のもと、まちづくり情報の共有及び情報発信・連携に関する意見交換等を実施

《メンバー》

- ・大阪市（此花区、港区、大正区、住之江区、大阪港湾局）
- ・堺市（建築都市局）
- ・大阪府（大阪港湾局、大阪都市計画局）

《内容》

- ・各主体のまちづくり方針・取組状況等についての情報共有
- ・情報発信・連携等に関する意見交換 等

連携イメージ(段階的・発展的に取組を展開)

《STEP1》

バイの魅力発信

『(仮)バイエリア魅力発信マップ』の作成・発信

《STEP2》

イベント等連携

イベント+つなぐ施策(サイクル・鉄道・舟運、スタンプラリー等)

《STEP3》

他地区・他事業等連携

IR、他地区、民間事業者等との連携

R8年度

R9年度以降、検討

R8年度の取組

▶ (仮) バイエリア魅力発信マップの作成

観光資源にとどまらず、産業・生活・開発など**都市のポテンシャルを可視化し、都市に点在する多様な資源を“つなぐ”ことで、回遊の促進と価値創出につながるツール**として活用

○紙マップ

集客施設、駅、公共施設等で配布し、エリアの広がりや魅力を直感的に伝える回遊の起点として機能

○デジタルマップ

(Google Maps等との連携を想定)
GPS連動による現在地表示やスポット詳細情報を提供し、回遊を支援するとともに、情報の深掘りと更新を可能とする基盤として機能

紙で回遊のきっかけをつくり、デジタルで回遊と情報更新を支えながら、
多様な主体の参画を促す

循環のイメージ

- 来街者増加（集客・消費）
マップ配布やWeb公開により来街者数が増加し、消費の拡大につながる
- 情報発信（認知向上）
来街者や地元住民によるSNS発信が活発化しエリアイメージが向上
- 事業参画（出店・実証）
バイエリアのまちづくりが段階的に進展
- 投資促進（魅力創出）
にぎわいが新たな投資を呼び込み

- 西日本の海と空の玄関口となる大阪広域バイエリアの将来像、バイエリアの活性化にかかわる様々な主体の取組の基本的な方向性を示すビジョンとして策定

コンセプト CRESCENT-LINK OSAKA-BAY

大阪湾を舞台に、最先端技術、由緒ある歴史・文化と豊かな自然が調和し、世界とつながるヒト・モノ・コトの交流と成長

取組の方向性

地域資源・既存ストックの活用

① “みがく”

【大阪湾】産業(漁業振興、大阪産(もん)の活用)の活性化、大阪湾環境再生、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現など
【臨海部】地域資源等の個性をみがくとともに、価値を守り、新たな魅力を付加、地域の特性に応じた、新たな資源・魅力を創出 など

隣接府県・西日本等との連携

② “広げる”

海上交通や自転車等の連携による瀬戸内・淡路島等との回遊性向上
歴史街道等を活用した近隣府県との連携
大阪広域バイエリアが一体となった国内外への情報発信 など

地域資源の連携・ネットワーク化

② “つなぐ”

海上交通・鉄道・自転車等の連携による回遊性の向上
歴史街道、祭り・イベント、スポーツ施設等の連携による活性化 など

背後地域との連携・ネットワーク化

② “つなぐ”

漁港(朝市・マルシェなど)等と内陸部の駅周辺商店街、歴史・文化地区等との連携による相乗効果の創出

人や組織、事業等の育成

③ “育てる”

社会実験や初動期の支援により事業や活動を育てる
まちづくりの担い手となる人や組織を育てる
観光資源やまちのブランドを高め、府民・市民の海への関心や愛着を育てるなど

推進体制

大阪広域バイエリア まちづくり推進本部	本部長:大阪府知事 副本部長:大阪市長、堺市長 本部長:大阪府 府民文化部、商工労働部、環境農林水産部、都市整備部 大阪市 経済戦略局 堺市 文化観光局、産業振興局、建築都市局 大阪都市計画局、大阪港湾局
バイエリア まちづくり連携会議	顧問:大阪府副知事 会長:大阪都市計画局技監 委員:大阪府、沿岸市町の関係部局

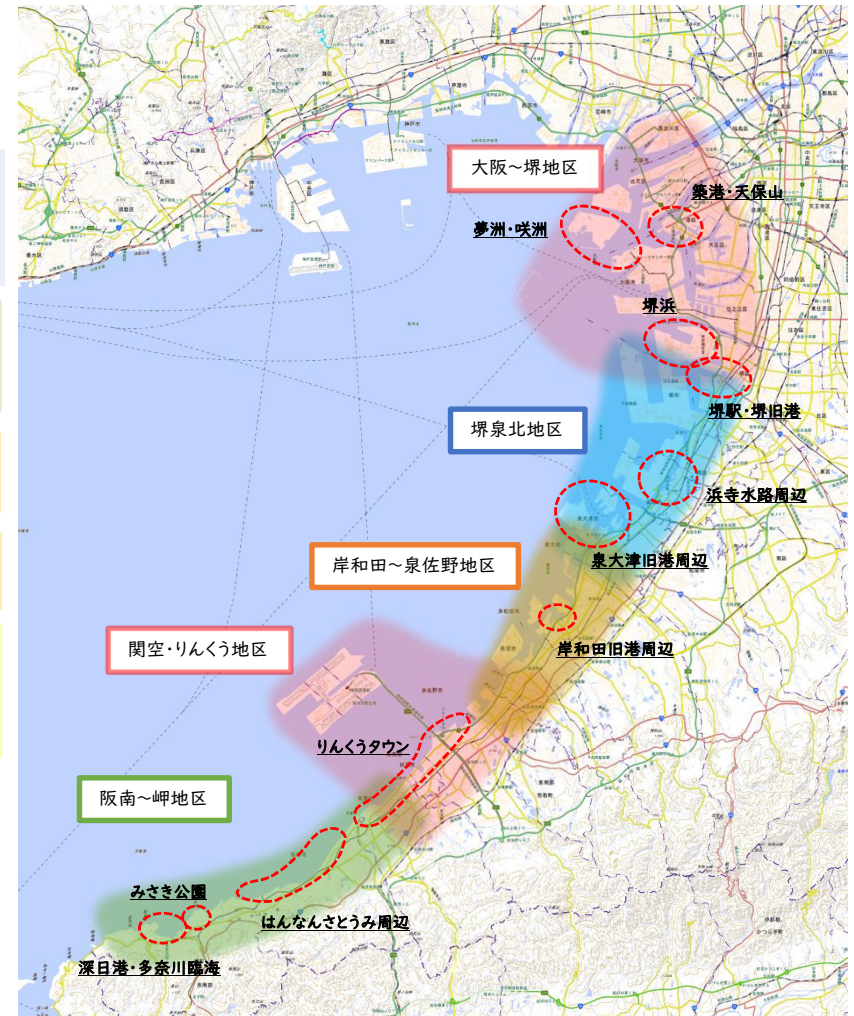


図:ビジョン(案)p12より抜粋加工